

さくら

題字 足立区長

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会

連合会長 中田 貢弘

編集 広報部会

発行日 2004年3月1日

〒120-8510

足立区中央本町1-17-1

目次

心の健康フェスタ 2

全体食事会 3

祝 厚生労働大臣賞 4

合同地区だより 5

介護支援センター 6

こども家庭支援センター 7

民児協便り 8

編集後記



本木東小2年 倉田美乃里

協働

教育長 内藤博道

教育長に就任して8ヶ月が過ぎようとしています。最近痛感していることは、教育も総合行政ということです。教育だけの自己完結システムでは、何も解決しません。

中でも、福祉との連携が最も大切です。いじめ、不登校、虐待など解決しなければならない課題は山積しています。民生委員の方々と課題と情報を共有し、共に進んでいかねばと思います。福祉と教育の協働によって、足立の未来を見たいものです。



次世代育成は福祉と教育の連携で

福祉部長 石川義夫

足立区では、次世代育成行動計画を子育て専門部会で策定中です。「3歳までは母親に育てられるべきではないか」。0歳児保育を巡って、白熱した議論がありました。

当協議会からは、中田連合会長と飯塚6地区会長にご参加いただいています。常々、足立の明日を担う子どもを育むためには「福祉と教育の連携が必要」と連合会長がおっしゃっています。民生児童委員の皆様は、そのカナメであり、今後とも一層のご尽力をお願いします。





第8回「こころの健康フェスティバル」への後援と参加

足立区民生・児童委員協議会では、足立区が主催する「こころの健康フェスティバル」を後援し、フェスティバル当日はバザーを実施いたします。

今日の社会は、人間関係の希薄化、不況、リストラなどによりストレスの度合いが増加しています。「こころの健康フェスティバル」は、区民の心の健康、心の病に対する理解、心の病をもった方々の社会復帰を進めることを目的に、区内の精神保健福祉関係機関等が参加して行われています。

足立区民生・児童委員協議会では、各地区会長及び民生・児童委員の皆様方のご理解とご協力をいただき、フェスティバル当日は、民生・児童委員の皆様から提供していただいた物品をバザーへ出品いたします。バザーの売上金は、足立区社会福祉協議会へ寄付いたします。

日時＝3月6日（土）正午～午後4時

場所＝足立区役所

（庁舎ホール・アトリウム・正面広場）

内容

ホール＝①特別講演「人生エッセイ」小川宏氏
（司会業・元フジテレビ「小川宏ショー」司会者）

入場開始 12時45分

講演開始 13時15分

*定員450名（先着順）

②座談会（当事者） ③演奏 ④演劇等

アトリウム＝作品展示・野点・自主製品販売・家族会紹介・家族会相談・就労相談等

正面広場＝①ミニコンサート 安藤秀樹氏（シンガーソングライター）

正午～午後1時

②模擬店・バザー等 *バザーへは民協からも出品します



費用＝入場無料 申込み＝当日直接会場へ

みんせいかわらばん

竹の塚地区 こんなことをやっています

私達の民生委員活動の中で特記すべきは、六月中学校と地域の高齢者とのふれあいいきいきサロンです。六月中学校では3年目になる活動です。このサロンで私たち民生委員は、地域の閉じこもりがちな高齢者に声をかけ、サロンへの参加を呼びかけしたり、一緒に参加してお手伝いをしています。中学生は育ち盛り、まだ言葉遣いや行儀も未熟ですが、六月中学校の生徒さんは元気で幼くかわいい方たちばかりです。生徒と高齢者の間に入り、進んで話し掛けるようにしています。10月に行ったサロンでは、車いすで町に出てみました。みんなで、元渕江公園

まで車いすに乗ったり押したり、ワイワイガヤガヤと体験しました。公園では、転倒予防体操同好会の皆さんの協力で、体操をして気分上々。学校へ戻り、車いす体験の感想を話し合いました。1月は、お茶会と百人一首、3月はうどん作り、熱心な生徒さんもあるので、次のサロンが楽しみです。（ふれあいいきいきサロンは、社会福祉協議会が行っている事業です。）

（飯泉 節子 記）



民生・児童委員全体食事会

足立区民生・児童委員協議会 全体食事会



中田連合会長



鈴木区長



鹿浜区議会議員



大澤都民連会長
全民連会長



大原前連合会長



中村第五合同会長

平成 15 年度民生・児童委員 10 月期全体食事会が 10 月 28 日に東京會館で行われました。当日は雨が降る肌寒い日でしたが、会場内は熱気にあふれ足立区民生・児童委員の活躍ぶりが表れておりました。6 時、区歌が流れる中、全員拍手で来賓の方々をお迎えしました。信条朗読後、主催者代表の中田連合会長の挨拶では雨の中、出席いただいたご来賓に対するお礼の言葉、役員に対してねぎらいの言葉がありました。ご来賓の鈴木区長からは「地域の社会福祉については、中田連合会長始め民児協委員の努力により、着実に成果を上げています。また、足立あんしんネットワークの専門相談協力員として、高齢者の方々が安心して生活できるのも皆様のご協力の賜と深く感謝申し上げます」とのご挨拶があり、次に鹿浜区議会議員「複雑・多様化する地域社会の中、常に変わらぬ隣人愛の精神をもって、地域の方々のよきパートナーとして、広く



全員で民生委員の歌を合唱

社会全体の福祉の増進に日夜献身的に活動されていることに敬意を表します。また、家庭の問題、高齢者の問題、

▼宮入 5 地区会長他明大マンドリンクラブの皆様



子どもの問題など、難しいさまざまな相談を受けるとありますが、福祉行政向上のためご協力、お力添えをお願い申し上げます。次に大澤全民児連会長からは足立区民生児童委員に対するお誉めの言葉をいただき、「これからは地域福祉に密着した活動をしていただきますようお願い申し上げます」。次に来賓の方々他の紹介後、大原前連合会長の乾杯で食事会、2 部ではマンドリン演奏、地区代表による民生委員の歌、抽選会などがあり楽しいひとときを過ごしました。

中田連合会長、中村実行委員長始め 25 名の実行委員の皆様、福祉部職員の皆様、大変お疲れさまでした。

(8 地区 田中 榮一 記)

とぴっくす

平成 15 年度「人権のつどい」
講演 テーマ
「拉致被害者・ご家族の方々とともに」
講師
内閣官房参与 中山恭子氏
主催
足立区・足立区教育委員会
12 月 15 日(月) 足立区庁舎ホール



「拉致問題に対してもっとも大切なことは、関心を寄せ意見を述べ、この問題にかかわっていくことです。帰国された 5 人の方々の健康、生活など国を上げて応援していきたい」と話された中山参与から、強い意志を感じました。テレビで拝見する穏やかなお話でしたが、超満員の聴衆から大きな拍手が上がりました。
(広報 須田 陽子 記)



祝 厚生労働大臣賞



第一合同常東地区
吉田 敏江 前会長

顧みますと昭和52年に民生委員の委嘱を受け、地域との係わりが密となりました。思い出は、子どものない一人暮らしの高齢女性が救急車に乗る際、印鑑、通帳、全財産を私に託し、最後を看取り甥に渡した件。また子どもがない老夫婦、突然妻に先立たれ、連日の如く煮物を届け、入院の際は生活保護受給者だが貯めた貯金通帳や全財産を依頼され、最後を看取り甥に渡した件。信頼と責任の重さを痛感しました。幾多のケースの取り組み、民生委員として貴重な人生体験に感謝しております。



第二合同東綾瀬地区
榎本 正次 会長

このたび厚生労働大臣賞を受賞できたのは、東綾瀬地区の民生・児童委員の、ご理解ご協力と、第二合同の委員方の、数多いお力添えがあったからです。役所の方々から適宜なご指導を頂きながら、福祉に関係する手伝いを、ほんの少々と、ご近所の相談事に応えた務めを25年継続しました。困り果てたことや、胸にこみ上げる感動と喜びも経験しました。歩いた道程を想えばみな感謝です。今後は研鑽を拓くことに励み、努力していきます。



第六合同15地区
高波 登利子 会長

樹木の息吹きが、たちまち緑を千枝万枝に茂らせ、夏には木陰を作って涼を恵んで下さり、錦秋の美しい彩どりで目を楽しませる自然は、花々と共に何とすばらしいことの繰り返し。私も長い歲月、繰り返し繰り返し皆さんと同じ仕事を続けてまいりました。厚生労働大臣からお褒めの賞状にあずかりましたがひとり私事ではなく、委員全員で頂戴致しましたものと心得えています。



合 同 ・ 地 区 だ よ り

第一合同5地区

12月9日、5地区研修会が開かれ、研修に先立ち、10年在職表彰を受けられた齋藤榮一さん、渡邊君江さんに会より記念品が贈られました。研修会では、専門部会で勉強している各委員から、老人保健

施設、児童相談所等の見学、生活保護費の算定、目の不自由な方のための音声変換機器の見聞等、民生委員として研鑽を重ねていると報告がありました。

(鹿角 千賀子 記)



◀西新井第一小5年
菅野優美

第二合同19地区

自主研修は12月5日、出席者21名により五反野「江戸一」で行いました。恒例の信条朗読、会長挨拶、各専門部会員の報告に続き、在宅介護支援センターでの合同連絡会参加者の報告がありました。その中で、各老人施設への入所待機が話題になり、入所は順番でな

く調査により重度者から優先すべきであるとの意見で一致しました。また会長研修での題材「相手の話をよく聞くことの大切さ」について全員で話し合いを持ち、その大切さを再確認いたしました。短い時間ではありましたが、大変有意義な研修でした。

(竹内 栄一 記)

第三合同6地区

12月5日、中村中部福祉事務所長、清水民生係長をお招きして自主研修を行いました。所長から「ホームレス対策」の講話をうかがいました。平成14年、国は特別措置法を制定。自立支援を基本方針とし、財政上の措置が確定。都・区は連帯し、冬季臨時宿泊事業、路上生活者対

策事業としての緊急一時保護センター、自立支援センターへの入所。就労により自立を推進させるなど区としても生活保護の適正実施、緊急対応など状況確認の上で、支援してゆくというものでした。

(森 春枝 記)

▶関原小6年
角田佳奈香





第三合同10地区

12月16日、午後6時より関原大和屋にて10地区の自主研修・懇親会を行いました。秋庭会長挨拶の後、「ホームレス対策と今後の展開について」また、在宅介護支援センター関原の奥澤所長より「痴呆高齢者へ

の理解について」各々貴重なお話を傾聴することが出来ました。自主研修終了後、懇親会に入り親睦を深め、8時半に別れを惜しみつつ散会しました。

(川島 清美 記)

第三合同11地区

第三合同11地区民児協の自主研修会を12月9日に足立区障害福祉センター「あしすと」において行いました。中川秋美所長より「あしすと」は様々な訓練等障害者の支援をする施設であるという説明

を受けた後、各支援室・訓練室等を見学いたしました。権利擁護センターあだちの渡辺一郎所長より、高齢者虐待の事例やパターン等の講演を聴き有意義な研修でした。

(伊藤 里子 記)



栗原小3年 岡本春菜

第四合同8地区

クリスマスのイルミネーションが街に煌めき始めた12月6日に、地区別自主研修会を中田屋にて開催しました。今期で退任される4人の方から挨拶があり、次に2、3人の方からいくつかの事例を発表してもらい、

それについて意見が活発に飛び交ってとても良い研修が出来たと思います。その後、忘年会で楽しく盛り上がり、和やかなうちに今年を締め括って終わりました。

(大島 小真里 記)



本木小1年 吉川香穂

第五合同鹿浜地区

鹿浜地区の自主研修は、前半を事例発表、後半を忘年会を兼ねた懇親会という形で行われました。どこの地区も同様とは思いますが、自主研修の名が付くために懇親会の前に少しだけ何か研修風のことを考えてのことだと思います。会場はお店ですので、閉店時間から逆算すると、

研修はやはり30分から40分くらいになってしまいます。理想は研修会と懇親会を別個に行うことです。しかし現実的になかなか難しいということもよくわかります。これは、これから皆で考えていかなければならない一つの課題だと思いつつ研修を終えました。

(野辺 陽子 記)

第七合同17地区

12月18日に今年度最後の自主研修会が行われました。会長報告、各部会報告の後、福祉部高齢サービス課 橋本課長による「どう変わる、あなたの町の介護保険」と題しての講演をお願いしました。負担抑制、ケアの質の

確保、事業者振興など相反する課題に区は取り組んでいるとのことです。有料老人ホーム・グループホームが急増している話も、分かり易いように資料も添えて下さいました。実に有意義な研修会でした。

(遠山 善吉 記)



本木東小3年 呉本将史

第七合同花畑地区

12月19日、桜花亭にて委員17名出席で開催。始めに今年表彰を受けた2名の方に記念品の贈呈が行われました。委員が現在抱えている児童虐待について皆で話し合い、その後講師として石川義夫福祉部長を迎え、「歴史から学ぶ福祉、ローマ帝国、カエサルの決断」というテーマで講義を受け、そして介護保険の復習、

支援費制度、足立区の福祉施策について説明をして頂きました。ユーモアを交えた2時間の講義は束の間のひと時でした。高齢化、少子化、財政不足、このような現状の中で私達委員に課せられた任務は山積しており、この研修で学んだことを今後の福祉活動に役立てられたらと願っています。

(有馬 妙子 記)

在宅介護支援センターと連携した高齢者の相談について

人が生きるということは、困難に直面し悩み苦しむことを伴います。「世話にはなりたくない」とはよく聞きますが、人生では時に他者の支援を受けざるを得ないアクシデントに遭遇します。特に高齢者の場合、老化に伴う機能低下等から、少なからず自分では「どうにもならないこと」の起こる割合が増します。高齢期は相談できる人の存在が極めて重要な時期とも言えるのです。

膨大な福祉需要を抱える足立区では、身近に見守りや支援を必要とする方が数多く居られます。そして生活に課題を抱え、自力では解決が難しい状態の方たちは相談を必要としています。初期相談のポイントは、その人を「治そう」とするのではなく「分かってもらう」とすることだと言われています。その姿勢が信頼関係を築き具体的な問題解決を望ましい方向に進めていきます。しかし、具体的な問題解決を図ろうとした場合、公的な相談や手続きを進める窓口は多岐にわたっており、はたしてどこへつなげていけばよいのか迷うことがしばしばあります。

そのような場合、高齢者の総合的な相談

窓口となる近くの在宅介護支援センターにご連絡ください。スタッフは、医療や福祉の専門職が従事していますので、緊急性の判断や問題の背景にある、身体の衰えや病気の影響、経済的な問題や家族・近隣との関係など蓄積された様々な事情に応じて適切なサービスや窓口とつなぐお手伝いをします。

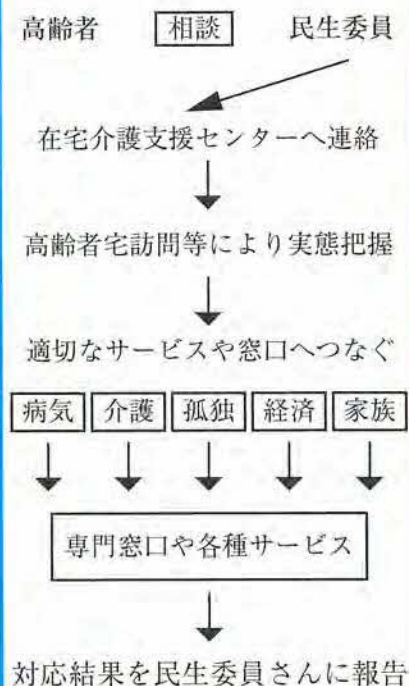
また、介護保険制度の仕組みや介護予防について学びたい場合は、ご相談をいただければ出前講座も行っています。

65歳を過ぎると二人に1人が子ども世代と住まず、四人に1人がひとり暮らしをする時代が来ました。更なる需要の増大に備え、足立区ではあんしんネットワークを中心に領域を越えた連携を進めています。公民の福祉と街の中の思いやりの融合。この取り組みは望ましい方向へ導いていく必要があります。しかしそれは、少人数配置の在宅介護支援センターだけでは拡がりません。1人でも多くの地域住民の理解と参加のもと、連携して進めていくことが必須です。

ご近所同士が気軽にお付き合いできたら困り事の多くは解消します。今、地域を支える「連携の力」が問われています。

基幹介護支援センター
介護事業課長 和田 忍

高齢者相談の対応モデル



寺地小 2年 榎本 綾



寺地小 5年 中川 梢

てくらニュース

扇小・ゆうあいの郷で体験学習

扇小学校では毎年、手作りの大型絵本を特別養護老人ホーム・ゆうあいの郷「扇」へ発表にいきます。絵本選びから始まり、クラス全員で1冊の大きな絵本を作ります。効果音を付けたり言い回しを工夫したりと、お年寄りが楽しんでくれるように何度も練習を重ねました。当日は少し緊張したようですが、お年寄りの喜ぶ顔を見るうちに、子どもたちの表情が優しくなっていくのが分かりました。今回の体験から人を大切に思う気持ちをしっかりと感じ取ってくれたのではないかと思います。

(長 博 扇小学校教頭)



子どもたちの感想

さいしょはきんちょうしたけど、うたをうたったり、かみしばいを読んであげてうちに、きんちょうなくなりました。とてもいい体験になりました。(武本孝浩)

おばあちゃんが元気でびっくりした。かたをたたくとき、やさしくできてよかったです。またいきたいです。(田川美咲)

おじいちゃんたちが、うれしなきをしていて私たちはうれしかったです。手をたたいていただいたときなどが楽しかったです。

(白岩美沙)

かつて足立区では、元気に走り回る「風の子」がたくさんいました。大人は、互いに声をかけ合いながら地域のこどもたちを見守っていました。しかし、社会の急激な変化は、こどもたちや、子育て中の親を取り巻く環境をすっかり変えてしまいま



した。周囲に相談相手がなく、子育てに悩む親。顕在化し、増加する児童虐待。家庭や地域など、様々な場で直面する子育ての問題。こうした、子どもと家庭に関する問題に対して、総合的に対応する組織として、平成14年4月、足立区こども家庭支援センター「風の子」を開設しました。こども家庭支援センターでは、「子育てって楽しいよね!」と言える家庭を増やすことを合言葉に次の事業を展開しています。

① 総合相談（風の子オンライン）

こどもと家庭に関するあらゆる問題についてこども自身や保護者からの相談に応じると共に、ニーズに見合った子育て情報の発信（ホームページを開設）をしています。

② 子育てサロン事業

サロンは、主に三歳未満のお子さんと子育て中の若い母親が親子でいつでも自由に遊べるフリースペースです。



興本小 3年 二瓶 咲

③ 子育て支援研修

子育てに関する機関、団体、個人及び一般区民向けの研修を実施しています。

④ 子育て支援グループ（ボランティア）の育成

子育てグループの交流や情報交換、場の提供・学習機会の提供をしています。

⑤ 児童虐待防止対策の推進

児童虐待の防止や早期発見、対応するための「児童虐待から子どもを守る地区連絡会」の開催や「児童虐待対応マニュアル」の作成をしています。また、虐待により一時保護した子どもが家庭に復帰した後の見守りや、子育てに問題を抱えた家庭への支援を行っています。

⑥ あだち——ほっとほーむ事業

夜間、保護者が一時的に養育困難となった場合、センターが必要とする支援をマネジメントし「協力家庭」が一時的に児童を預かり養育支援を行っています。



平成14年度、「子育てサロン」の登録世帯は1600件。延来所数は2万人を超えました。これは、地域ボランティアの「子育てアドバイザー」の皆さんが常駐し、ちょっとした悩みや相談を受けていることも盛況の一因と思われます。また、相談件数は、500件弱で、そのうち児童虐待のケースが35件ありました。この中には、地域の民生・児童委員の方々と協力しながら取組んだケースも多数ありました。来年度も、こども家庭支援センターでは、「子育てサロン」の増設など新たな取組みをします。しかし、これからの子どもたちが健やかに成長するためには地域がみんなで子どもを見守ること——地域ぐるみの子育てを応援する取組みが必要だと思います。

こども家庭支援センター所長
宮本 忍

主任児童委員体験談

少女M子は、16歳。小二の時母が再婚したが、その実母は、小五の時に病死する。母の死後、義父とM子の同居生活となるが、この義父は酒を飲むと、人格が変わり、M子に殴る蹴るの身体虐待、性的虐待を毎晩繰り返す。本人が通学する高校の保健の先生があざだらけの皮膚を発見する。すぐ本人に児童相談所へ行く

ように勧める。義父に問いただすと、長期間M子に虐待していたことを素直に認めた。M子は児童相談所の判断で通学可能な地域の施設に入所し、新しい生活を送ることになった。楽しいはずの思春期を辛く過ごした「心の痛手」は生涯忘れることができないでしょう。



西新井小1年 平塚龍馬



民生・児童委員協議会からのお知らせ

(確定ではありません。変更される場合もあります。)

日 程	会議名	場 所
4月15日(木)	会長協議会	区役所13階会議室
4月	地区自主研修	地区の指定場所
5月	会長協議会	未定
5月17日(月)～20日(木)	合同協議会	区役所13階会議室
6月11日(金)	会長協議会	区役所12階会議室
6月～7月	ケースワーカー懇談会	地区の指定場所
7月9日(金)	会長協議会	区役所12階会議室
8月	会長協議会	未定
8月	全員研修	未定
9月10日(金)	会長協議会	区役所13階会議室
9月13日(月)～16日(木)	合同協議会	区役所13階会議室

ときの話 題

「第22回全日本小学校バンドフェスティバル全国大会」で優秀賞受賞

神戸で行われた全国大会に千寿第八小学校金管バンドクラブ総勢61名は期待に胸をふくらませ、早朝出発しました。マーチングは、小さい子どもにとって体の半分以上もある楽器をかかえ歩調を合わせるだけでも



大変なものです。早朝、放課後と、体に染み付くようなレベル向上に向けての練習の日々でした。そして、「サウンドオブミュージック」の演奏を終えたときの



感動と達成感。「何事もやればできる」という自信を得ることができたと思います。子ども達にとって、この大会への出場は、最高の思い出になったことでしょう。

(第一合同常東地区 藤本 享子 記)

皆様の原稿を募集いたします 次号発行予定日 7月1日 連絡先 地区 広報委員

編集後記

広報紙も、無事4号を発行することができました。部員も紙面作りに大分慣れてきて、編集、校正、それぞれ一生懸命取り組んでいます。まだまだ未熟ではありますが、皆様に愛される広報紙を目指し、頑張って

いきたいと思います。ご意見、ご希望等をお寄せください。「さくら」が立派な広報紙へと成長してゆくようご協力をお願いいたします。

ご意見ご希望をどしどしお寄せください。

(須田 陽子 記)

計報 第四合同7地区 糸久 ヤエ殿 15年12月20日

第三合同10地区 鈴木 啓之殿 16年1月3日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

広報部会

部長 平田 幹明

副部長 高野 正季

渡邊 正勝

会計 須田 陽子

山崎 道子

書記 山本 祥一

宮本 勝男

編集委員 小菅 順實

安藤 順子

松本 はな美

猪俣 勝美

大山 久勝

内藤 久子

中島 千代

加藤 喜代子

田中 栄一

大野 悦子

森脇 久仁子

武内 啓友

飯泉 節子

塩田 博子

細井 力造

北嶋 昭夫